

CURIOUS MINDS

発行: せんだい若者サポートステーション
〒982-0001 仙台市太白区八本松1丁目12-12
TEL: 022-246-9685 FAX: 022-246-9691
Mail: info@saposute.ne.jp
URL: http://www.saposute.ne.jp

平成22年2月 第29号

*せんだい若者サポートステーションは、厚生労働省の「若者自立支援ネットワーク整備事業」です。「社会へ一歩踏み出す」「働く」など、“これから”と一緒に考えていきましょう。

～“curious minds”の願い～

“curious”とは、「好奇心のある」の意味。せんだいサポステは、好奇心(=楽しみを見出す力)を大切に考えています。せんだいサポステに集まる若者も、一人ひとりが素敵な好奇心の持ち主。その好奇心を輝かせ、自分の未来に向かって歩み出していこう、という思いで、この広報紙を“curious minds”(キュリアス・マインズ)と名付けました。

活動のご報告、そして今後のイベントのご案内等を、コンパクトにまとめてお伝えします。

せんだいサポステinformation

宮城県若者自立支援ネットワーク会議開催



1月20日(水)、県庁において「平成21年度宮城県若者自立支援ネットワーク会議」が開催されました。この会議は、各機関の連携による若者自立支援の促進を目的とし、せんだい若者サポートステーションを始め、宮城県・仙台市の主要各課、労働局、商工会等の26団体が参加しました。

会議では、各サポステの利用状況や県の取り組みの報告、サポステの利用促進やジョブトレーニングの受け入れ先拡大について等の検討がなされました。

そこで見えてきたものは、社会状況の変化などもあり、家族支援や「人を育てる」仕組みを包括的に構築していく必要がある、ということでした。

一人ひとり、顔が異なるように、抱えているものや背景も様々です。その方に合った支援を考える上でも、これからますます多くの関係機関の方々との連携の大切さを痛感しました。

今後も、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※宮城県若者自立支援ネットワークは、平成19年11月に設置。全構成員数は202団体です。

「コミュニケーションワーク」とは?

毎月1回行っている「コミュニケーションワーク」。常に10名近くの方が参加する、ちょっとした人気(!?)のプログラムです。そして「その都度内容が違うのが楽しみ!」と言ってくれる人も少なくありません。

基本的な流れは

自己紹介(これも立派なコミュニケーションです!)

↓
ゲーム的なワークで緊張感をほぐす

↓
相互交流をより深めるためのワークです。

時には言葉に頼らないコミュニケーションを体感することも。初めはドキドキでも、意外に楽しめるものです。まずは、気軽に参加してみてくださいね。

出前相談会のお知らせ

～3月の予定～

終日(10:00~16:00)、個別相談会を行います。電話でご予約の上、おいで下さい。
(仕事の紹介・斡旋ではありません)

◎ 3月 9日(火) 仙台保健福祉事務所塩釜総合支所(塩釜保健所)

(塩釜市北浜4丁目8-15 TEL 022-363-5502)

◎ 3月16日(火) 仙台保健福祉事務所黒川支所(塩釜保健所黒川支所)

(黒川郡富谷町ひより台2丁目42-2 TEL 022-358-1111)

<対象となる方>

- ・「仕事をしなきゃとは思っているけれども、何から始めていいかわからない」というご本人
- ・「本人の力になりたいが、どう接すればよいか…」とお考えのご家族の方など

平成22年度も、引き続き実施する予定です
詳細は、次号でお伝えします

「何を話せばいいんだろう」「初めてのの人に、いろいろ聞かれたらいやだな…」など、色々な想いがよぎると思います。無理に話そうとすることは全くありません。会場に足を運んでいただくことも、十分に意味のある行動です。お待ちしております。

※詳細は、せんだいサポステ(022-246-9685)までご連絡を頂るか、ホームページ(<http://www.saposute.ne.jp>)をご覧ください

バックナンバーは
ホームページで

“curious minds”のバックナンバーが、せんだい若者サポートステーションのホームページからダウンロードできます。もちろん、最新号もその都度アップしていきます。是非とも、ホームページ版もご活用ください。

せんだい若者サポートステーションURLは、<http://www.saposute.ne.jp>

かきこみ処 さぼす亭

いらっしやいませ。“かきこみ処 さぼす亭”でございます。
こちらは、せんだいサポステメンバーが担当するコーナーです。
豆の次はチョコレート。チョコレートの次はひなあられ。
「きょうちゃん」がお送りいたします。

<今月のおしながき> ~ | am. . . ~

◇こんにちは。先日、伊坂幸太郎さんの小説が原作の映画、『ゴールデンスランバー』を観ました。すべて仙台で撮影されていて、わたしにもわかる場所がたくさん出てきました。また、作中にテレビから流れてくるCMや番組のBGMが、宮城県に住んでいる人なら必ず1度は耳にしたことがあるだろうというものばかりで、物語の進行に良い味を出していました。ストーリーの解説、キャラクターの面白さ、ロケ地の確認など、もう一度観に行きたくなる映画です。



◇さて、先月このコーナーでは新年明けましたということで、わたしの2010年の目標を掲げていました。今回はその続きのような感じで、「自分の好きなことを得意なことにする」について書きます。

◇前回、わたしは自分の好きなこととして編みものを例に出していました。編み物は、小学生のころにもやったことがあります。昔から好きだったというわけではなく、数年前のある日、なんとなくやりたくなったので、なんとなくやり始めたという感じです。それで、いくつか形になるようなものを編むことができたので、この技術を何かに使えないかと思い、自分が編んだものをネットオークションに出品してみました。すると、なんだかんだで落札してくださった方がいらっしやったのです。ちょっとびっくりしました。出品はしたものの、まさか自分の編んだものが落札されるとは……。

◇その後も、何か編んでは出品しを繰り返しました。編む作業も楽しかったし、インターネットで今流行っているニットものを調べたり、材料費はいくらかかるか(どこで材料を買ったら安い)、どれくらいの価格で出品したら落札されやすいか、などを考えるのも楽しかったです。出品するたびにコンスタントに落札されていたわけではありませんが、割と良いペースで落札されることができました。落札してくださった方には、本当に感謝しています。



◇上記のことは、わたしが他県にいたころの話で、宮城県に戻って来てからは体調の不良もあり編むのを休んでいました。ですが、わたし自身手作りのものを使うのが好きだし、自分が編んだものを使ってくれるならばと、体調の良い日に編みものを再開しました。ネットオークションに出してはいませんが、身内向けにベストや帽子を編んだりしました。

◇最近自分用に編んだのが、左の写真のキャスケットです。かなり大きめで、耳まですっぽりかぶれます。眼鏡をかけていると耳当てをするのが煩わしいのですが、このキャスケットなら耳まで覆えるので、耳当てをしなくて寒い日に自転車に乗っても大丈夫なのです。しかも、市販のキャスケットを買うよりも安くできました。我ながら、良いもの作っちゃいました。と、自画自賛(自帽子自賛?)。

◇編みものは、一本の糸が姿を変えるのが面白いです。線が面になるのは、結構感動します。編みものに限りませんが、手作りのものというのは、既製品にはない味わいがあると思います。そういうところが好きなのです。今のところ、かぎ針編みを中心に編んでいます。今後は、棒針編みでも何か作れるようになりたいです。そしていつかは、かぎ針編み・棒針編み共に、自分の頭の中で思い描いたオリジナルのものを、実際に形にすることができるようになりたいです。

◇そろそろ、ネットオークションに出品するのも再開しようかなと思っています。わたしは、実のところ、編むのにかかった材料費さえ下回らなければ、いくらで落札されてもかまわないのです。自分が作ったものを欲しいと思ってくれる人がいるなんて、それだけで嬉しいのですから……。そのためには、やはりもっと良いものを編みたい。そう思います。

◇わたしは、ひとりでも平気なのですが、自分が作ったものを誰かに使ってもらいたいだなんて、結局本当は寂しがり屋なのかもしれないですね(笑)

といったところで、今回のかきこみ処さぼす亭はこれにてお開きです。読んでいただきありがとうございました。

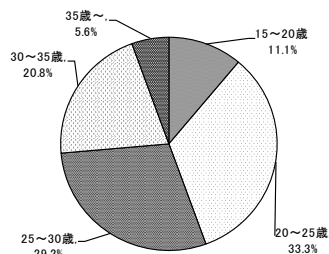
せんだいサポステDATA (平成22年2月15日現在)

登録者数 307名 (男女比は65:35)

相談件数 3,079件 (1日平均 4.7件)

イベント参加者数 3,263名 (1回平均 5.0名)

登録者の年齢では、H21年度は20代後半の割合が最も多く、全体の約1/3です。(右グラフ参照)。「職業経験有り」は8割近くを占めます。その形態は、正社員、派遣社員、アルバイトなど様々です。



編集後記

この冬、バンクーバーオリンピックが開催されています。オリンピックは何故これほどまでに人の心を引き付けるのかと、つい思ってしまいます。4年に一度という貴重さ、スポーツの持つ強さと美しさ、選手のひたむきさ、その裏にある努力、ふとよぎる愛国心……いろいろあります。

その中で、多くの選手が口にした「支えてくれる人のために頑張る」という言葉が、特に印象に残りました。

自分以外の誰かのために、自分の外に意味を感じた時に、人はより大きな力を発揮するのでしょうか。それを“プレッシャー”ではなく、力にするカギは、私たち自身の心の中にあるのかもしれません。(松井)